



さいたま市立与野南小学校 【児童数】計386名
電話 831-0157



価値付けて伸ばす

校長 穴戸 貴久

「やって見せ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。」

山本五十六（1884～1943）の言葉の一節です。現代語訳すると、「まずは実際に自分がやって見せて、しっかりと説明をして理解してもらい、その後実践させて、その行為を褒めてあげなければ、人を動かすことはできない。」という意味になります。

4月8日の始業式で、子どもたちに、「相手の気持ちを考えられる人になってほしい」という話をしました。学校ではたくさんの方が一緒に生活をしています。一緒に生活するたくさんの方が幸せな気持ちで生活するために、自分はどうかしたらいいのかを考えられる人になってほしいという話です。

始業式後、廊下を静かに歩く6年生の姿がありました。授業中でしたので、他の学級では授業が行われていました。「大変よい歩き方ですね。他の学級が授業をやっていることによく気が付きましたね。それが相手のことを考えるということです。」と、声をかけました。翌日の登校の際、1年生の速度に合わせてゆっくり歩く班長さん、こまめに後ろの1年生の様子を見してくれる班長さんの姿がありました。「1年生のことをよく考えてくれてありがとうございます。それが相手のことを考えるということです。」と、声をかけました。

「えらい」「すごい」と褒めただけでも子どもは喜び、意欲が高まります。しかし、自分の何が「えらい」「すごい」のか理解できるのでしょうか。褒めることは大切ですが、それだけでは足りない気がするのです。「あなたの行為は、〇〇だから素晴らしい。」と価値付けてあげることで、考えて行動する力が身に付くのだと思います。

4月22日の一斉下校で、子どもたちに宿題を出しました。登校の際、与野南中学校の生徒は、与野南小学校の児童が来ると、縁石の外に出たり、反対側の縁石のない歩道に移動してくれたりします。地域の人も同じようにしてくれます。大変ありがたいのですが、それに甘えていいのでしょうか。南小の児童も、南中の生徒も、地域の人も、みんなが安全な縁石のある歩道を歩くことはできないのでしょうか。この宿題に対して、子どもたちが相手のことを考えた結果がどのような姿に表れるのか、楽しみに見守り、そして、価値付けたいと思います。

学校でも、家庭でも、地域でも、相手のことを考えている姿を価値付け、地域全体で「相手の気持ちを考えられる南っ子」を育てていきたいと考えています。

「やって見せ、言って聞かせて、させてみせ、価値付けてやらねば、人は動かじ。」

<年度当初懇談会の感想や御意見の一部ですが、紹介させていただきます。>

- 久しぶりに保護者の皆様と交流させていただき、お話を聞いてとても参考になりました。担任の先生のお話、説明も分かりやすかったです。
- どのような学級経営をしたいのか、現在の子どもの様子などが聞けてとても参考になりました。
- 校長先生の動画がとても素敵でした。入学式のフォトスポットも取り上げていただけて嬉しかったです。
- 校長先生の「人の気持ちを考えられる人になってほしい」という言葉については、初日に帰宅した際に本人から話を聞き、本人も心に刻んでいたようでしたので、家庭でもそれに見合った行動ができるようサポートしていきます。
- 授業参観なしで、懇談会、PTAの役員決めとなっているのは、長時間の拘束を回避できてありがたい取組だと思えます。
- 年度初めの懇談会の時に授業参観もあるといいなと思います。そのほうが担任の先生が言っている子どもの様子がよく分かります。